

佐伯を犬の先進都市へ

後編

佐伯犬祭実行委員長 大津勇人

プロフィール
大津勇人

2012年、佐伯市にて
DOG SALON102を開業。
「しつけ教室」や「佐伯犬祭」など人と犬とが共生できる街づくりを目指して奮闘している。



前回は犬の先進国の歴史を少し紹介させていただいたが、今回は犬の先進国として有名なドイツの法律や条例の一部を紹介しようと思う。

1. ドイツの犬の飼育基準(法律や条例)

ドイツには「動物保護法」や「攻撃性および危険性の高い犬に関する条例」や「犬の保護条例」という犬を正しく飼うための法律や条例が定められているが、その中の一部を抜粋して紹介したいと思う。例をあげると

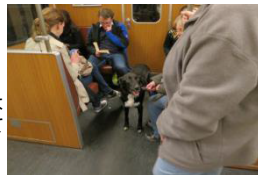
- ・犬を一人ぼっちにして、長時間留守番させてはいけない。
- ・家の外で犬をつないで飼う場合は、必ず犬小屋を用意し、網の長さは犬が自由に動けるように最低6メートル必要。
- ・檻の中で飼う場合も犬の大きさに応じて最低の大きさでも6平方メートル必要。
- ・外の気温が、21℃を超える場合は、車内に犬を置き去りにしてはいけない。
- ・1日最低2回、計3時間以上、屋外(運動や社会性を身につける)やドッグラン(おもに社交性を身につけるため)へ連れて行かなければいけない。
- ・生後8週齢の子犬は親元から引き離すのは禁止。

など私のような犬を生業にしているプロでも全部守るのは非常に難しいような内容である。

しかし、これらの基準の多くを守れているからこそ犬に自然と社会性が身に付いたり、しつけの行き届いた買やすい犬がふえているのではないだろうか。そして、これらの基準の一部を守らないと動物保護法の規定に基づき罰金が科せられるし、正しい飼い方が出来ずに住民からの通報があると、獣医局やアニマルポリスから指導を受けることになる。

そしてそのあとで違反が続き正しい飼い方が出来ないと判断されれば、強制的に犬が没収され、施設で保護されることになる場合もある。

ちなみに、狭い部屋で多頭飼いをしたり、飼い主が留守中に無駄吠えをしているだけでも通報されることあるのだそう。個人的には日本の動物愛護法をここまで厳しくする必要はないと思うが日本は日本なりの飼い方でドイツの良いところを真似してさらに良い法律や条例を作って欲しいと思う。



ドイツの電車内の様子。
犬がそのまま乗れるのは
ドイツ人が犬に対して
寛容だからだ。

2. 犬の血統の管理団体の出現と法律の制定

先ほどはドイツの犬の法律に触れてみたが、ここではドイツでの犬との暮らし方について触れてみたいと思う。まずドイツは犬の学校(しつけ教室)が各都市にあり、ベルリンだけでも50校以上ある。ほとんどの飼い主は犬を飼いはじめると生後8週齢~1歳半くらいまで、自分に合った犬の学校に通える。



ドイツの動物の家。
一見ペットショップのようだが
れっきとした保護シェルターだ。

そこでしつけはもちろんのこと社会性やマナーも身に付けていく。その後犬の学校(しつけ教室)で勉強してきた犬は公園や川沿いをノーリードで散歩したり、公共交通機関に子供料金で乗れるようになる。日本の場合は小型犬などはゲージに入ればバスや電車はオーケーな会社もあるがドイツの場合は大型犬でもリードを付けていればそのまま乗ることができる。もちろんそれはしつけに自信があるからできることだろう。他にも、デパートやレストランは犬同伴でもオーケーの店が多かったり、大半のスーパーの店先に犬とリードをつないでおける犬の駐車場があったり犬を飼っている人はとても暮らしやすい環境になっている。

また、動物保護施設である「動物の犬(ティアハイム)」では広大な敷地の中にペットショップと見間違えほどの広々とした清潔な空間で犬猫が管理されている。日本の保護施設はほとんど国が管理しているが、ドイツのティアハイムは市民と企業からの寄付金で賄われている。そして、そこにいる犬猫の生年月日や性格、保護された理由を記した犬の履歴書も見ることが出来る。そのため、新しい家族を迎えに来た人も自分に合いそうな犬を探すことができる。

ここまでよんでいると、いかにドイツ人が犬を手厚く扱っているということがお分かりいただけるだろう。そして、なぜドイツがここまで犬と共生しやすい社会を築けたのか？それは犬を飼っているいないに関わらずドイツ人の多くが犬に対する関心や理解力が高いということだろう。だから、ノーリードでもオーケーな場所があったり、公共交通機関にそのまま乗れたりするのではないだろうか？これは飼い主側だけでなく周囲の理解がないと実現するのは難しいことだと思う。また、犬の学校を卒業している飼い主が多いということは訓練士以外にもしつけにかんして身近に相談できる人が多いということになるのでドイツの飼い主はしつけの悩みを相談できる相手もきっと多いことだろう。

3. 佐伯を犬の先進国都市に

ここまでドイツを犬の先進都市として紹介してきたが、私が思うに間違いなく日本も飼い主のマナーや犬に対する愛護精神はここ数年で良くなっていると思う。そういうのも私が幼少期の頃にはまだ野良犬がいて校庭に犬が迷いこんだり、散歩中に柴犬に追いかけてられて太腿をかまれて内出血したり、土手をランニングしていたら犬の落し物を踏んで周りからかわれたりしたものだ、私は元来の犬好きなので咬まれようが、落し物を踏もうが犬の事は嫌いにならなかったが、人によっては今後犬嫌いになるくらいのトラウマになってしまうかもしれない。

だが、それらの問題もきちんと飼い主がうんちを放置しないようにうんち袋を持参して散歩するなどのマナーを守り、人や犬を咬ませない、無駄吠えをさせないようにするしつけ方を学べば、犬は可愛いだけで日々の暮らしに癒しをくれる最高のパートナーとなり、飼っていない人も嫌な思いをしなれば犬嫌いも少なくなっていくはずである。

『佐伯を犬の先進都市に』一見夢物語のような話かもしれないが犬を飼っている人も飼っていない人もお互いを尊重し、今よりも少しだけ犬のしつけを学んだり、マナーを守ったり、犬に思いやりを持つようになるだけで実現できることだと思っている。私は佐伯市という温かい人が多い土地柄ならその目標を達成できると信じて、今後も「佐伯犬祭」や「犬との絆を深めるしつけ教室」など犬を飼うとこんなに楽しい事があるんだ！というイベントを続けて犬を飼っている、飼っていない関係なく犬好きな人を佐伯市に増やしていきたいと思う。

最後に初めてこのようなコラムを書くのでつたない文章で読みにくかったかもしれませんが、さいきん紙にニヶ月連続で自分の思いを寄稿させていただき、ありがとうございました。



今年で5年目を迎える佐伯犬祭
佐伯の先進都市に
今年も11月11日に開催予定。